

《海港と空港の連携》

平成19年度 関西国際空港における 航空物流機能強化の取り組み

国際貨物取扱施設の増強状況

1 国際貨物上屋A棟
(日本航空インターナショナル)
2004年10月 6,190㎡



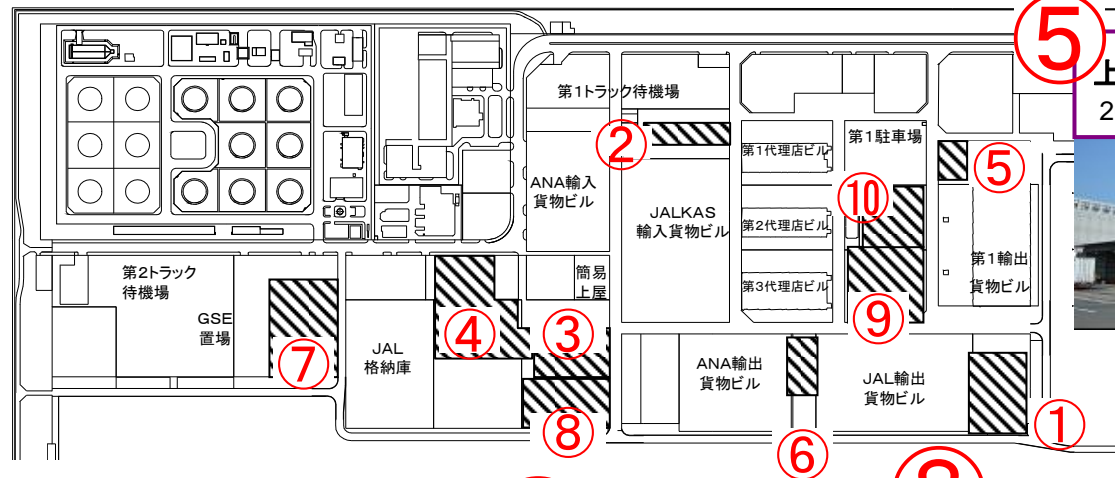
2 生鮮貨物取扱施設(航空集配サービス)
2005年7月 2,366㎡ 2006年6月再拡張+1,154㎡
日本の空港内では最大の低温庫



3 CKTSカーゴビル
(キャセイ関西ターミナルサービス)
2005年8月 6,853㎡



4 国際貨物上屋B棟
(日本通運)
2005年11月 9,437㎡



5 上屋底拡張(FedEx)
2006年2月 1,036㎡



6 JALKAS
第3貨物ターミナル
(日航関西エアカーゴシステム)
2006年9月 2,015㎡



7 国際貨物上屋C棟(DHL)
2006年10月 10,100㎡



10 国際貨物上屋F棟(阪急交通社)
2007年12月 約4,000㎡



9 国際貨物上屋E棟
(郵船航空サービス)
2007年6月 約6,230㎡

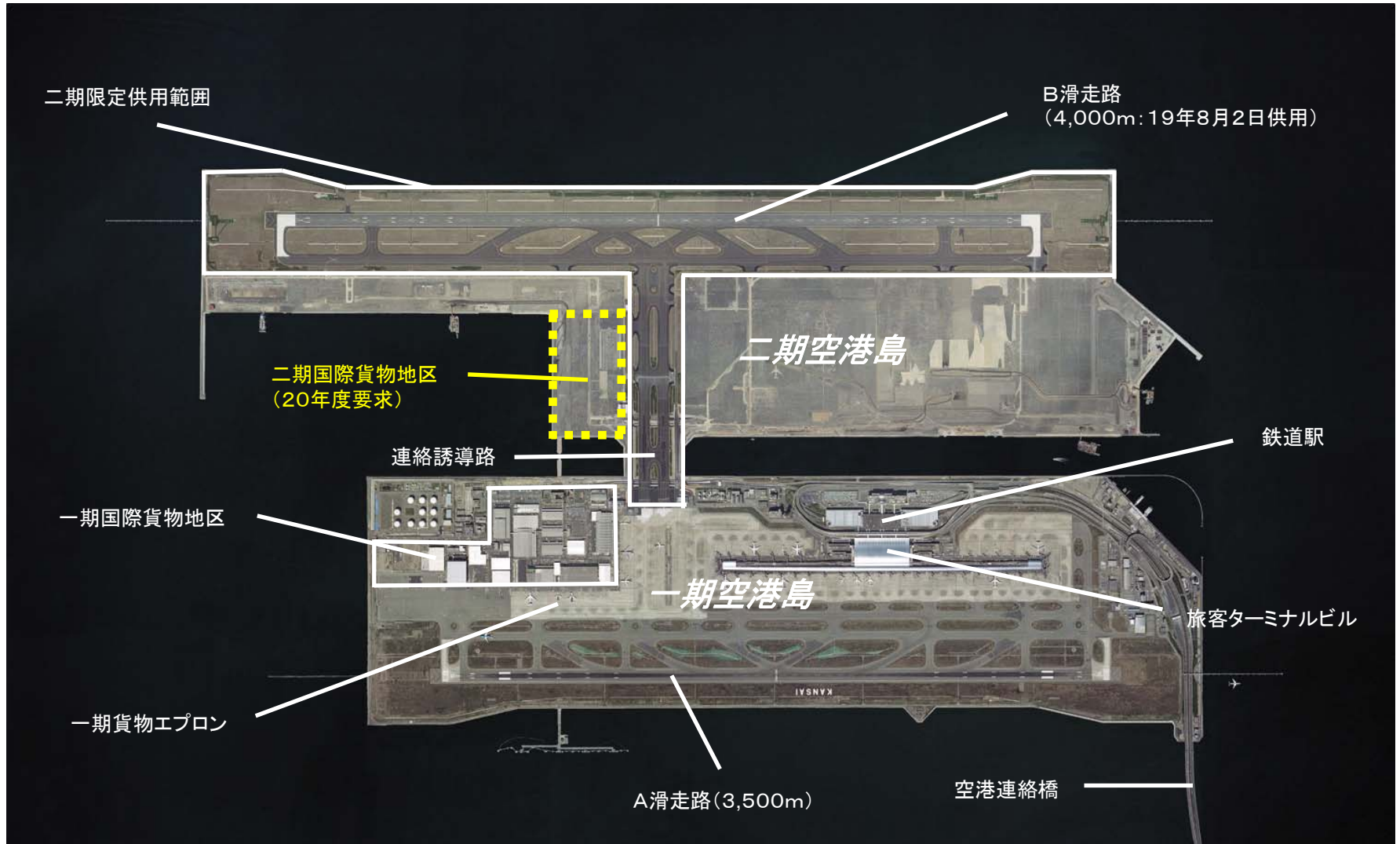


8 国際貨物上屋D棟
(日本貨物航空)
2006年10月 6,200㎡



(各面積は延床面積を表記)

二期空港島国際貨物整備予定地区

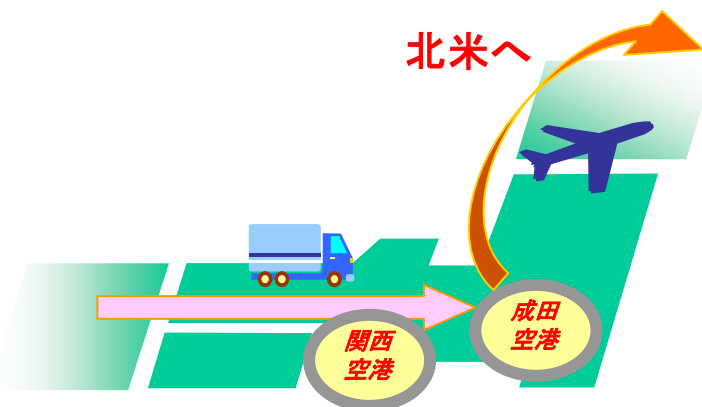


2007年度関空国際物流効率化モデル事業

～北米向け貨物便ネットワーク強化、関西・西日本の貨物は関空から～

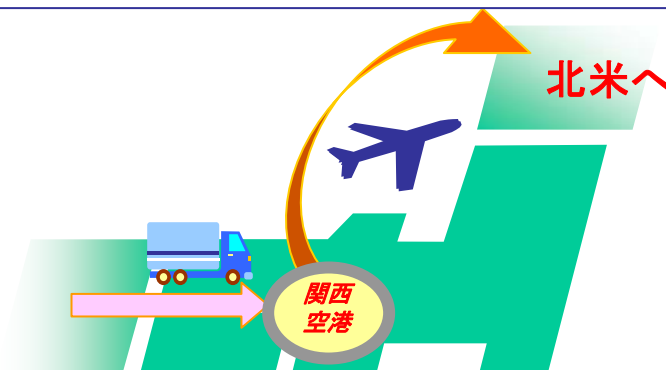
1. 現状

- ・関西、西日本から成田空港へトラックで貨物を輸送。
- ・特に北米に向けては3割以上が成田空港発。
- ・その結果、リードタイムも1日余分に要している。



2. モデル事業(北米向け貨物便ネットワーク強化)

- ・関西、西日本の貨物は関空利用促進をプロモーション。
- ・北米向け国際物流効率化(リードタイム1日短縮等)の検証。
- ・北米向け貨物便ネットワークのさらなる強化につなげる。



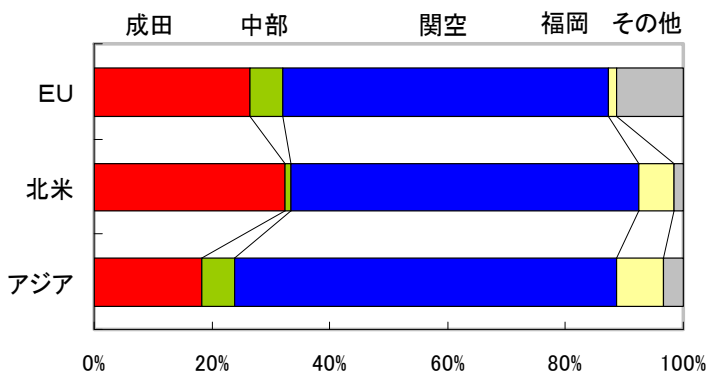
2007年度モデル事業について

- ①期間: 2007年11月5日～2008年3月末
- ②対象便: 日本貨物航空のロサンゼルス便(B747フレーター)
日本航空インターナショナルのロサンゼルス便(B747フレーター)
全日本空輸のシカゴ便(B767フレーター)

モデル事業で実証する成果等(予定)

- 荷主企業: リードタイムの短縮(トラック横持ち輸送の短縮)
- フォワーダー企業、航空会社: 業務の効率化
- 関空会社: 貨物ハブ空港としての機能強化(広域からの集荷)
- トラック輸送削減によるCO2削減効果
- ☆貨物便ネットワーク強化のための課題の明確化

西日本発の航空貨物の利用空港



出所: 財務省・税関「2006年9月輸出入貨物の物流動向調査」より作成

2007年度関空国際物流効率化モデル事業の対象貨物便

(1) 日本貨物航空（2007年10月29日から運航開始、週3便、機材B747）

曜日	関空発	ロサンゼルス着（現地時間）	ロサンゼルス発（現地時間）	関空着	曜日
月曜	09:00	02:20	01:30	11:35	土曜
水曜	09:50	03:10	16:50	21:55	日曜
土曜	08:45	02:05			

(2) 日本航空インターナショナル（2008年1月13日から運航開始、週1便、機材B747）

曜日	関空発	ロサンゼルス着（現時時間）	ロサンゼルスからの戻りは成田空港 （モデル事業の対象外）
日曜	08:20	01:20	

注：1ヶ月間のトライアル運航を行い、その後の運航継続を検討。

(3) 全日本空輸（2008年1月7日から運航開始、週4便、機材B767）

曜日	関空発	シカゴ着（現地時間）	シカゴ発（現地時間）	関空着	曜日
月曜	10:00	09:40	22:15	05:40	月曜
火曜	22:15	21:25	11:45	19:10	火曜
木曜	22:15	21:25	22:55	06:20	木曜
土曜	21:35	20:45	22:55	06:20	土曜

モデル事業搭載便の状況

（2007年11月～12月、日本貨物航空）

- 積載貨物量は双方向ともほぼ満載。
- 関空積み主な貨物は、デジタル関連電気機器（含む液晶）、半導体関連機械等。
- ドア・ツー・ドアでリードタイムが2日短縮の事例が確認されている（11月21日、ロサンゼルス便）。



関空深夜貨物便の利用促進及びモーダルシフト推進に向けた物流効率化実証実験イメージ

今回の実証実験



■実験期間

平成19年11月19日(月) ~
平成19年11月22日(木)

■協力

京セラ株式会社
日本通運株式会社
株式会社近鉄エクスプレス

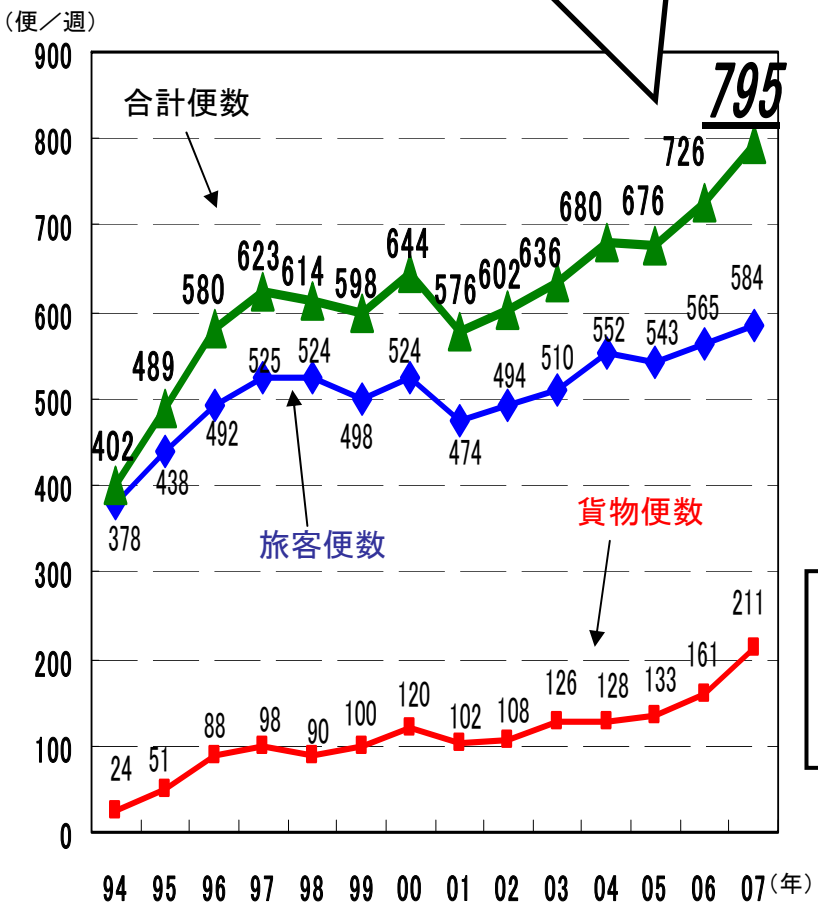
検証!

- ① 輸送コスト
- ② 環境効果（二酸化炭素、窒素酸化物等の排出抑制）
- ③ サービス面の評価
- ④ 関空深夜貨物便利用に与える影響
- ⑤ 継続的实施に向けての課題・必要条件

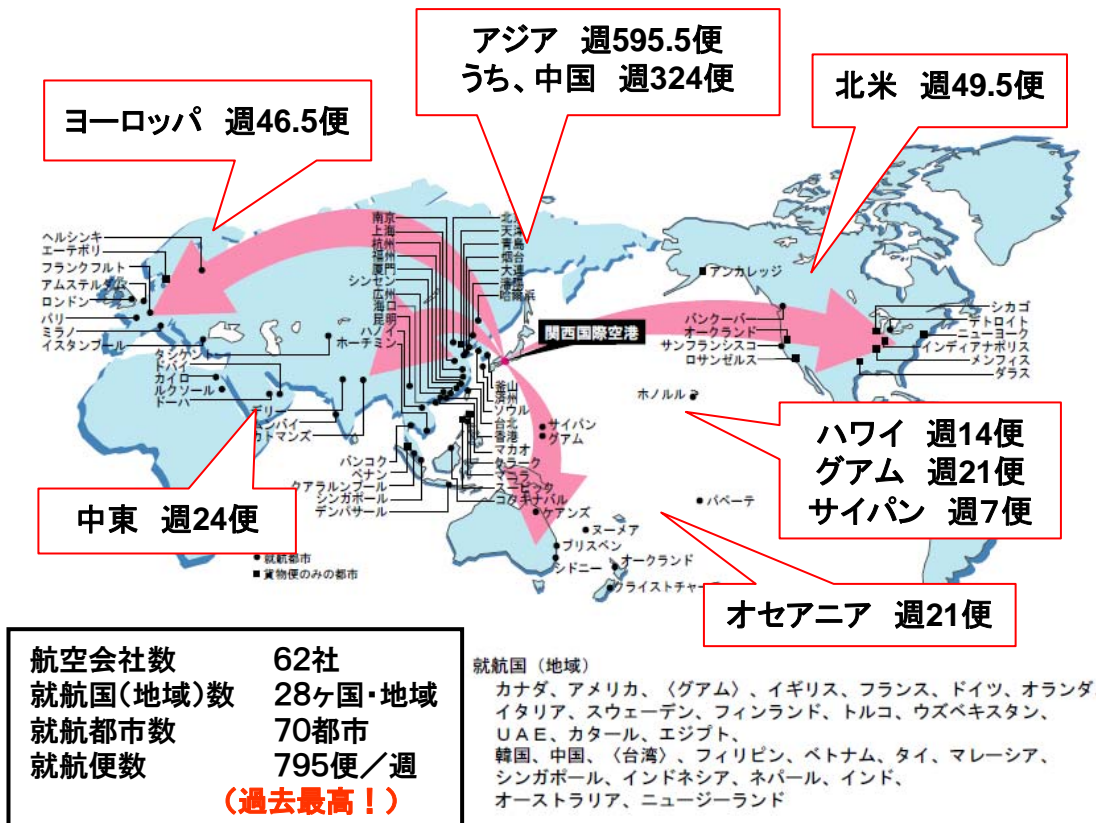
関空の国際線便数・ネットワーク (2007年冬期スケジュール)

○国際線冬期スケジュール就航便数の推移
(定期便のみ)

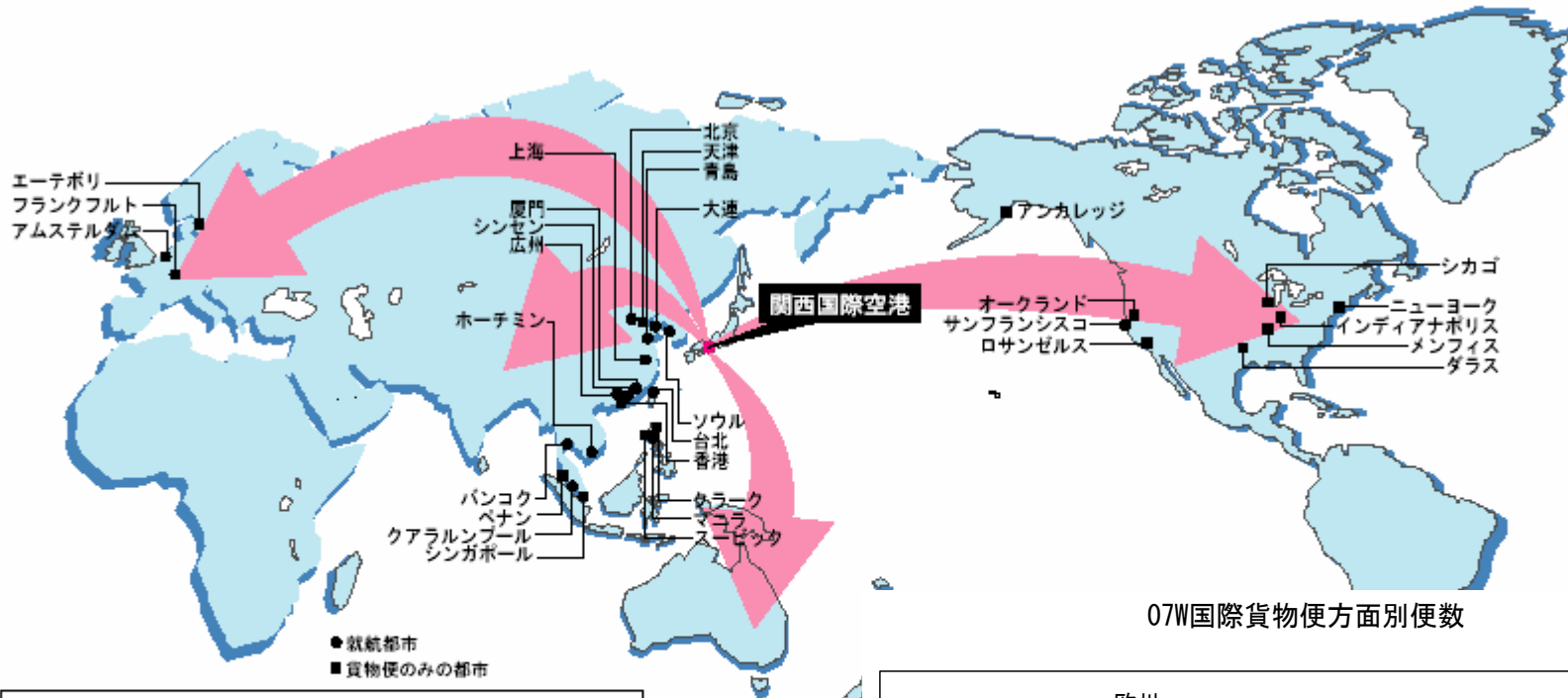
過去最高便数!
70都市(28カ国)に就航



○国際線就航状況<2007年冬期スケジュール>
(定期便のみ)



関空の国際貨物便就航状況(2007年冬ダイヤ)



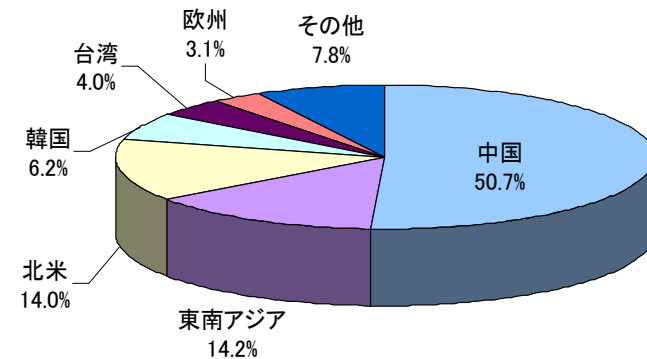
07W国際貨物便方面別便数

航空会社数 25社
 就航国(地域)数 12ヶ国・地域
 就航都市数 31都市
 就航便数 211便/週

就航国(地域)

アメリカ、ドイツ、オランダ、スウェーデン、韓国、中国、〈台湾〉
 フィリピン、ベトナム、タイ、マレーシア、シンガポール

※ 冬期スケジュール期間中のピーク月(3月)の計画です。



方面	中国	東南アジア	北米	韓国	台湾	欧州	その他	計
07W	107	30	29.5	13	8.5	6.5	16.5	211
07S	87.5	27.5	23	12	7	6.5	13.5	177
増減	19.5	2.5	6.5	1	1.5	0	3	34